

令和 7 年 12 月 20 日

埼玉県教育委員会教育長  
日吉 亨 様

よりよい一女をつくる有志の会

### 11 月 19 日の教育長発言に関する意見書

去る 11 月 19 日に行われた意見交換会では教育長が生徒・保護者に直接対応しました。報道の範囲では、過去に教育長は共学化賛成の市民団体とは直接会っていますが、別学維持を求める生徒・保護者と会うのはこれが初めてでした。その際、教育長からは以下のような発言がありました。

- 1 社会では男女が協力するのは当然で、学校も社会と同じ環境がふさわしい。だから共学が望ましい。
- 2 (その根拠・データは、と問われて)データの裏付けは必要ない。
- 3 別学という枠組みを特色とは考えていない。
- 4 今回の報告書については長時間かけて教育長含め教育委員 6 名で協議している。(議事録未公開)
- 5 共学化推進にあたっては、アンケート、意見聴取、意見交換会などで県民の意見を丁寧に把握して、参考にしている。(だから十分、の意か)
- 6 (大きな政党の)県議会議員は県民の代表だから議員の意見はしっかり聞いていく必要がある。
- 7 他県の共学化はまずかったところは確認できなかった。

1 と 2 は 12 月 8 日の県議会における教育長答弁においてもほぼ同趣旨の内容が繰り返されました。この日の質問者であった井上航議員は、共学化推進は「県民の納得に至っていない」と述べましたが、1～7 の教育長の発言は、県民をさらに納得から遠ざけるものです。

そもそも、現実の社会では男女の協力が当然とは言い難く、性別役割分業やジェンダー格差が存在し、「女らしさ」の概念が残存し、女性が抑圧を感じる場合もあります。女子校はそのような負の側面から自由な環境であり、のびのびと個性や能力を伸ばせるので、自立した人間が育つと、従前から一女関係者は主張してきました。しかし、そうした女子校の価値は一顧だにされていません。

県教委は、教育委員会制度の意義の一つである「地域住民の意向の反映」に基づき、別学維持を求める多くの県民の意見を尊重し、根拠なき共学化推進を白紙に戻してください。

今後、求められた場合には、教育長を含む教育委員が意見交換会に参加し、生徒・保護者の意見を直接聞いてください。

以上、要望します。